

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

高い知性、豊かな人間性、健やかな心身をもち、国際人として、将来、世界のさまざまな分野で活躍できる素質を育てる。

- (1) キャリア教育の充実を通じて子供たちが新しい時代、どのような社会でも生きていける力を醸成する。
- (2) 高い基礎学力と自学自習力を持った生徒の育成。
- (3) 学校行事・特別教育活動や部活動等とおして逞しい実行力、実践力を養う。
- (4) 国際理解教育と科学教育を専門学科として極めると同時に、両者のメリットを融合させ未来の世界をリードできる人材を育てる。

2 中期的目標

1. 新しい時代のキャリア教育

当校の今まで積み上げてきた資産を活かし、進路指導体制の改編（グローバルキャリア課新設）とその充実を通じ 21 世紀型キャリア構築へのサポートを実行する。
主に以下の対応に強固な体制を作る。

※ 目標：長期留学派遣年 10 名以上を通じ、国内 SGU や海外直接進学などが行う多面的な評価での入試に強い学校を作り上げ、当領域での実績を伸ばす。

- ア 国内大学のグローバル化、海外大学進学ニーズへの対応。
- イ A0 入試や多面的評価入試（課題研究・長期・短期留学論文等）への対応。
- ウ グローバルキャリア観の醸成への対応。

2. 確かな学力への取組み

(1) 「魅力的な授業」「わかる授業」の実現と自学自習習慣の確立。

※ 目標：授業アンケート項目「生徒意識 1」「生徒意識 2」の肯定的回答の比率を毎年 85%以上を長期的に維持する。

※ 家庭学習時間（週 6.9 時間）を全国平均レベル（週 12.5 時間）までに伸長させる。

- ア 教員自らの学びを推進することで授業の質の向上をめざす。
- イ 授業アンケート結果に対して分析を行うことで、問題点を明確にして授業改善に取り組む。
- ウ 生徒の自学自習を支援し、自ら学ぶ力を深めるように助力をする。自習環境を整備し、自学自習の習慣の確立をめざす。

(2) 国際理解教育の充実

※ 目標：TOEFL iBT スコア 60 点以上を 8 名以上を達成する。（骨太の英語力養成事業の目標ステージ 1 と同様）

- ア 国際人としての広い視野と感性を育て、グローバルな社会で活躍できる人材の育成を行う。
- イ コミュニケーション能力を向上させ、留学や、海外の大学への進学を推奨する中で、世界を視野に入れた人材づくりを行う。
- ウ S G H 指定校、ユネスコスクールの加盟校として、海外との交流を積極的に行い、体験活動を通して国際性に富む人材を育成する。
- エ TOEFL・TOEIC・英語検定などの資格試験に積極的に挑戦し、自ら語学力の向上を図る生徒を育てる。

(3) 科学教育の充実

※ 目標：科学系コンテストにおいて、年間に 3 件以上の入賞

- ア S S H 事業及びその人材育成校の指定校として、その取組みを深め、世界で活躍できるグローバルな科学人を育成する。
- イ 五感で体得する理科授業をめざして、多くの実験実習を授業に取り入れ、その効果的な活用を行う教材を開発する。
- ウ 高大連携、大学訪問研修等を実施し、高校と大学の科学教育のスムーズな接続を行うとともに、生徒の学習意欲を高める。

3 進学保証

(1) 生徒一人ひとりの進路について、自ら目標を立て、可能性を追求し挑戦する態度を養い、実現できる生徒を育成する。

※ 目標：進路実績数（国公立+関関同立）100 名を目標、加えて、国公立大学合格者数 30 名以上、関関同立 180 名以上

- ア 進路情報の的確な提供と、きめ細やかな進路選択の指導を行う。
- イ 進学補習を計画的に実施し、進路を実現するための学力向上、家庭学習時間の伸長を支援する。

4 開かれた学校作り

(1) 学校の特色ある教育活動について、幅広く情報発信をすると共に、地域と連携し、「地域の教育拠点」としての機能を果たす。

※ 目標：学校説明会参加生徒数 1500 名以上

- ア 様々な情報メディアを活用し、きめ細やかな情報の発信を行う。
- イ 学校説明会等を充実させることで、入学者に対して、本校の教育活動に対しての理解を深める。
- ウ 地域の小中学生や住民に対しての科学講座・英語講座を実施し、地域の科学教育、国際教育の中核としての地位の確立をめざす。

5 活気と規律のある学校生活

(1) 生徒一人一人を大切にするとともに、自主性の向上をめざす。

※ 目標：部活動への入部率 85%以上。遅刻総数 1500 名以下

- ア 個別に支援が必要な生徒への対応について、校内の組織を整備するとともに、きめ細やかな運用を実施する。
- イ 部活動を活性化し、参加者を増加させるとともに、その内容の充実を図る。また、学習と部活動を両立することのできる生徒を育てる。
- ウ 基本的な生活習慣を確立し、規律ある行動をとることのできる、社会性の豊かな生徒を育成する
- エ 生徒会活動を活性化し、学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させ、「生きる力」を育む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校教育自己診断の分析】</p> <p>3 者（生徒・保護者・教職員）間での意識ギャップのある項目を課題として抽出。</p> <p>教職員の取り組み意識は高いが、生徒・保護者は低い項目は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 家庭学習の取り組み姿勢 ② 部活動と学業との両立 ③ 学校安全上の防災意識向上への取り組み <p>上の①と②の相関性が高く、かつ、家庭での取り組み意識も低位にあることから学校と家庭の両輪で対応を図る必要があると分析。特に週一回のノークラブデーの導入を契機に家庭への周知と時間の活用方法を検討する啓蒙を行う。③は、画一的な避難訓練の改善、マニュアルの周知徹底を各クラス、学年を中心に行うことで改善すると思慮する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 平成28年7月13日実施（1回） 「広報活動の充実について」 <ul style="list-style-type: none"> ○後期入試になり、従来通りの学校のランク付けは存在するようである。SSHやSGHの取組みは大変ユニークであり継続するべきであるが、もっと広報を行ってほしいのではと思う。SSHやSGHに取り組んだ生徒が進路実現を多くできるようになれば、逆転現象も夢ではないと思われる。多くの事業の中で選択と集中も大事であると思われるので、何か目玉になるような事業があってもいいと考える。 ② 平成28年10月27日実施（2回） 「先取りしたキャリア教育の継続・授業力向上について」 <ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育について文部科学省がこれから求めていこうとしている学生像を早くからめざして取り組んでいる。 ○授業アンケートについては 80%近く良い結果が出ている。アンケート結果が平均点以下の先生の数値をどのように上げていくかが課題。良い結果が出ている先生は、自然とアクティブ・ラーニングを行っており、自分なりの法則が確立されている。授業の上手な先生方が「どのような法則をもって生徒に対応しているか」を共有化すると良い。

府立泉北高等学校

	<p>③ 平成29年1月27日実施（3回） 「留学について」</p> <p>○若い頃に海外で学ぶ経験があった方がよいと思う。英語ができなかったとしても、むしろ苦手な学生が海外に行ける環境を作っていたらと思う。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 新しい時代のキャリア教育	<p>ア 国内大学のグローバル化、海外大学進学ニーズへの対応。</p> <p>イ A0入試や多面的評価入試（課題研究・長期・短期留学論文等）への対応。</p> <p>ウ グローバルキャリア観の醸成への対応。</p>	<p>新たな時代の潮流を見据えた進路指導体制の拡充。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルキャリア体制拡充。 ・短期留学制度の見直し（進路に結びつける）。 ・課題研究への取り組みと進路への導線づくり。 ・SGH・SSHの統合的取り組みにより、進路に結びつける。SGH・SSH枠での受験を推奨する。 ・海外修学旅行を実施する。また、海外の高校との国際交流を受け入れ、短期海外研修を実施する。 	<p>※長期留学派遣年10名以上（1名）（ ）内は27年度</p> <p>・専門学科での活動を活かした入試制度を活用することで、国内SGUや海外直接進学を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長期留学生派遣の促進において、グローバルキャリア科を設置し取組みを強化した。結果、文科省主導のトビタテ！JAPANの制度を利用し、12名の生徒が応募、うち4名が合格。大阪府立高校内では最も多い合格者を輩出。加えて、1名の私費長期留学生在が誕生。全ての留学生在は語学以外の社会的課題解決を視野に入れた目的での留学を条件として推奨。（○） ・SGU等へ29名が進学。（○）次年度以降も継続。
2 確かな学力への取組み	<p>ア 自学自習の習慣確立。</p> <p>イ 授業改善。</p>	<p>ア・「置き勉」指導などを継続的に行うことで、家庭学習を推進する。（アンカリング効果を狙う）</p> <p>イ・自習室の環境向上に努め、利用の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の増加をめざす。具体的方策を、各学年が提示し、課題検討委員会が集約する。 ・勉強合宿の実施や卒業生チューターの利用による自習習慣の定着化を進める。 <p>ウ・先進的な授業を視察・報告するとともに、テーマを定めた研究授業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業・授業参観の参観人数の増加を図る。 ・授業評価アンケート結果をもとに、授業力アップのための具体的対策を検討し実施する。 	<p>ア・2学期末での教室環境を「良好」以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自習室平均利用者10人以上。 <p>イ・生徒による授業アンケート「生徒意識2 85%」（82.0%）、「生徒意識1 85%」（80%）以上の達成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを定めた研究授業を学期ごとに実施。全教員1回以上参加。 ・公開授業・授業参観の人数合計300名以上。（282名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「置き勉」調査においてクラス間での達成度にばらつきがみられる。（△）継続案件。 ・自習室平均利用者10人以上。（○） ・生徒による授業アンケート「生徒意識2 85.3%」、「生徒意識1 84.3%と意識2は未達であるが改善を示している。（○） ・研究授業を学期ごとに実施したが全教員1回以上参加は未達。（△） ・回数等見直しにより公開授業・授業参観の人数136名となる。（△）次年度以降も回数等を見直ししながら継続する。
(2) 国際理解教育の充実	<p>ア グローバル人材の育成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH事業の推進。 ・英語力の底上げ。 ・国際文化の把握と興味の維持。 	<p>ア・SGH事業の推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SET・NETを効果的に活用し、英語によるプレゼンテーション能力・会話力を向上させる。 ・1・2年生全員にGTEC for STUDENTSの年1回の受験で生徒の英語力の分析を行い、科学的なアプローチで能力向上を図る。 ・学校設定科目「GET」、「ACT」によるTOEFL iBTのスコアの向上を図る。 ・総合科学科において、「科学英語基礎」を開講し、課題研究等の発表を英語で行う力を養う。 ・総合科学科のグローバルコース選択生は、研究成果を英語で発表できるようめざす。 ・海外進学や留学の説明会を行い、留学や、海外の大学への進学推奨を一層進める。 ・ユネスコスクール全国大会等に年1回以上参加し、交流を深める。 	<p>ア・TOEFL iBTスコア40点以上8名以上を達成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年時GTEC平均点480点以上。 ・スピーチ・レシテーションコンテストの各年1回実施。 ・総合科学科課題研究発表において、英語でプレゼンテーションをする班を3つ、英語でポスター発表をする班3つ。 ・総合科学科課題研究の発表概要を全員が英語で行う。 ・海外校の受け入れ5件以上。海外研修参加者50名以上。 ・ユネスコスクール全国大会等に年1回以上参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TOEFL iBTスコア40点以上39名以上を達成。（◎） ・2年時GTEC平均点482点以上。（◎） ・スピーチ・レシテーションコンテストの各年1回実施。（○） ・総合科学科課題研究発表において、英語でプレゼンテーションをする班を4つ、英語でポスター発表をする班3つ。（○） ・総合科学科課題研究の発表概要を全員が英語で行う。（○）今後、課題探求活動にNETの協力体制を整え目標に導く。 ・海外校の受け入れは業務の選択と集中を進めた結果4件。（○） ・海外研修参加者70名以上。（◎） ・ユネスコスクール全国大会等に年1回以上参加。（○）
(3) 科学教育の充実	<p>ア SSH事業の指定校として、人材の育成を行う。</p>	<p>ア・課題研究を深めて、科学系コンテストや学会での発表件数を増加させ、コンテストでの入賞をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数理科での実験実習の実施率を維持するとともに、より効果的な新しい実験・実習に取り組む。 ・高大連携講座や大学訪問研修を発展的に継続し、講座の参加人数、訪問する研究室数も昨年並みか、それ以上とする。 ・課題研究の成果と進学実績への結びつきを意識して、国公立大学のAO入試や公募推薦での合格をめざす。 ・海外高校生との合同研究や発表を行う。 	<p>ア・国公立大学のAO・公募推薦の合格者3名以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテストや学会発表を5テーマ以上（5テーマ）、3件以上の入賞。（3件） ・実験の実施率は30～50%、新実験を各科目2テーマ。 ・高大連携講座の参加者を延べ160人以上、大学訪問研修を30研究室以上。 ・海外との合同研究発表年1回以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学のAO・公募推薦の合格者2名。（△） ・コンテストや学会発表を5テーマ以上（5テーマ）、3件以上の入賞。（○） ・実験の実施率は平均50%以上、新実験を各科目2テーマ実施。（○） ・高大連携講座の参加者を延べ160人以上、大学訪問研修を30研究室以上。（○） ・海外との合同研究発表を台湾年1回以上。（○）
3 進学保証	<p>ア 進路保証</p>	<p>ア・高い目標を持ち、進路実現に向けて挑戦する態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路HRで進路選択に関わる情報提供（大学・予備校の講師による進学講話等）を行う。 ・オープンキャンパスへの積極的な参加の奨励。 ・校内実施の外部模試受験による、学力状況の共有と学習目標設定への活用。（データ分析に基づいた科学的なアプローチによる学力向上を図る） ・長期休業中の希望講習の充実。 ・予備校と提携した校内予備校の開催。 	<p>ア・センター試験出願者150名（125名）、国公立大学合格者30名（24）、関関同立180名。合わせて国公立関西8大学入学者実績100名（26年度79名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規に、グローバル意識の醸成を目標とした進路指導情報の定期的な情報提供を実施する体制を構築する。 ・オープンキャンパスへの参加者数延べ300名。 ・外部模試（1年1回以上、2年2回、3年5回）の実施する。 ・外部と連携した講習を年1回以上実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験出願者130名（129名）、国公立大学合格者22名、関関同立122名。合わせて国公立関西8大学入学者実績126名。（○） ・グローバルキャリア科の設置と進路指導部への移管を実施。（○） ・オープンキャンパスへの参加者数延べ278名。（△） ・外部模試（1年3回、2年4回、3年3回）実施。（○） ・外部と連携した講習は予算制約により実施を取りやめ。（△）次年度以降予算との関係に見直し必要。
4 開かれた学校作り	<p>ア 様々な情報メディアを活用し、情報の発信を行う。</p> <p>イ 学校説明会等を充実させる。</p> <p>ウ 地域の小中学生や住民に対する科学講座・英語講座を実施する。</p>	<p>ア・学校HPの役割を明確にして、在校生保護者の利便性を高め、SSH・SGH校間の連携を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月刊学校新聞およびメールマガジンを発行し、保護者への学校行事活動の周知を行う。 <p>イ・体験授業やクラブ体験、ミニオープンスクールなど、学校説明会を充実させる。</p> <p>ウ・小中学生対象の科学教室・英語教室を定期的・継続的に実施する。また、夏期休暇中に自由研究の指導なども行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民対象に、自然観察講座や実験講座を開催する。 	<p>ア・HPを毎週、Facebookを隔週で更新。HPに在校生保護者用のページを新設。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校新聞を毎月発行、メールマガジンを800名、100回配信。 <p>イ・学校説明会を3回実施。参加人数1400人（1300人）。</p> <p>ウ・小学生対象の科学教室は5回の基礎講座に加えて、2分野で発展講座を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民向けの講座を3回以上開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPを毎週、Facebookを隔週で更新。（○） ・HPに在校生保護者用のページを新設に向け見直し作業中。（△） ・学校新聞を毎月発行、メールマガジンを611名、56回配信。（△） ・回数見直しにより学校説明会を2回実施。参加人数1000人（1300人）。（△） ・小学生対象の科学教室は5回の基礎講座に加えて、2分野で発展講座を開催。2月に地域フォーラムを実施予定。（○） ・地域住民向けの講座を3回開催。（○）

府立泉北高等学校

<p>5 活気と規律のある学校生活</p>	<p>ア校内の支援組織のきめ細やかな運用を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の参加者を増加と学習と部活動の両立を促進。 基本的な生活習慣を確立し、社会性の豊かな生徒を育成する 学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させる。 	<p>ア・高校生活支援カードを活用し、個別の支援を必要とする生徒への包括的な支援体制の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談室機能を充実させ、課題や悩みを抱える生徒の状況把握など、組織的に取り組む。 教員の人権意識やカウンセリング能力を向上。 体験入部の期間の設定や、中学生対象の体験入部など、部活動の活性化に向けた取り組みを実施。 部活動参加者の進路実現に向けて、学習意欲向上に向けた分析と対策を実施する。 遅刻の実態と原因分析を行い、遅刻を減少させ、生活規律を向上させる。 学校行事等に対する生徒の自主的な運営を支援し、充実した学校生活を支援する。 	<p>ア・支援会議の隔週開催を中心に情報共有を推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達障がいに関する教員対象の研修会を実施。 入部率 85%以上 (84%)。クラブ体験会参加者 170 名以上。 遅刻者数年間 2000 人以下。(2654 人) 学校教育自己診断における「部活動と学習の両立」の肯定率を 50%以上。(45%) 「生徒の生徒会行事参加」の肯定的回答 80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援会議の隔週開催を中心に情報共有を推進。(○) 発達障がいに関する教員対象の研修会を実施。(○) 入部率 75%。(△) クラブ体験会参加者 238 名以上。(◎) 遅刻者数年間 2297 人 (△) 引き続き、「置き勉」指導などを継続的に行うことでアソカリング効果を狙い低減をめざす。 学校教育自己診断における「部活動と学習の両立」の肯定率を 44%。(△) 今後はノークラブデーの有効活用に取り組む。 「生徒の生徒会行事参加」の肯定的回答 77%。(△)
---------------------------	--	--	---	---